

## 令和元年度 事業報告書

特定非営利活動法人 日韓トンネル研究会

### 1. 事業の成果

日韓トンネルを実現するポイントである、①技術的な可能性の追求、②経済的な裏付け、③国民的な合意形成 を推し進めるため、研究の基本に立ち返り、英仏海峡トンネルやボスポラス海峡横断鉄道トンネルなどの事例などを研究した。その結果、巨大プロジェクトの実現要因の一つである、「根拠ある技術的実現可能性の確立」の再確認し、大水深や高水圧に耐えるマシンやセグメントの開発など設計・施工面での可能性に見当をつけることを目指した。

2019 年度は以下のことを研究した。

#### 1. 社会教育事業

- ・ 渉外活動
- ・ 講演会や勉強会の開催

#### 2. 調査研究事業

- ・ 地形地質の研究
- ・ 工法の研究
- ・ 事例研究
- ・ 日韓トンネルに関する資料収集
- ・ トンネルに関する既存資料収集

#### 3. 国際協力事業

- ・ 交流会の実施
- ・ 在外公館の訪問

#### 4. 情報収集提供事業

- ・ インターネットによる情報収集
- ・ ホームページの公開と維持

#### 5. 刊行誌の発行事業

- ・ 日韓トンネル通信の発行
- ・ パンフレット等の増刷

(研究成果の概要は当会の刊行物「日韓トンネル通信」に公表し、関係する政府ならびに地方公共団体に発送した。)

## 2. 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業費の総費用 4,704 千円

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
社会教育事業	<p><b>1-1. 渉外活動</b> 日韓トンネルを日韓両国が共同で取り組むプロジェクトとするために、日韓関係に関わる諸団体の代表者や議員などを対象に日韓トンネル構想の進捗状況や展望をブリーフィングした。</p> <p>① 2019年8月20日：大韓民国憲政会訪日団一行との意見交換 ② 2019年8月15日：[ ]と意見交換。 ③ 2019年9月下旬：北朝鮮を訪問し日韓トンネルについて意見交換。</p> <p><b>1-2. 講演会や勉強会の開催</b> 日韓トンネルに関する講演会や勉強会を実施した。日本国内で実施した講演会は以下の通り。</p> <p>① 2019年6月6日：講演会（総会にて） ・演題：「クローズアップ・ボスポラス、トルコ 150年の夢 アジアとヨーロッパを結ぶ海峡横断鉄道の建設」 ・講師：[ ] ・場所：東京</p> <p>② 2019年7月8日：講演会 中国鉄道関係技術者への講演 ・演題：日韓トンネルと一帯一路 ・講師：[ ] ・場所：東京</p>	通年	日本	5人	全会員 1,000人  政財官界人  日韓関係団体	365
調査研究事業	<p><b>2-1. 地形地質の研究</b> 日韓トンネルが通過する沓岐水道、対馬海峡西水道、同西水道の地質や基盤の分布について検討した。</p> <p><b>2-2. 路線の研究</b> 沓岐水道のルート選定に関連する沓岐層群の膨張性を持つ部分について検討した。</p> <p><b>2-3. 工法の研究</b> 高水圧下のシールドマシンによる長距離掘削研究の一環として東京外かく環状道路のシールド工事を研究し現地を視察した。 日韓トンネルへの応用が期待できる下記項目などにつき知見を得た。</p> <p>① 既設杭切削を可能とするカッタビットの性状や配置。 ② 地山やカッタビットの温度管理 ③ 高水圧に耐えるテールシールド</p> <p><b>2-4. 事例研究</b> ① 英仏海峡トンネル建設の歴史 英仏海峡トンネルが 200 年以上に亘り英仏両国間で建設の合意と破棄を繰り返した末に 1986 年の本格着工に至った背景を研究した。 ② 朝鮮海峡鉄道トンネル計画とその経緯 戦前に鉄道省が調査を開始した朝鮮海峡鉄道トンネルの背景などを研究した。 ③ 施工開始時の測量基線設定の重要性</p>	通年	日本	24人	全会員 1,000人	3,038

	<p><b>2-5.トンネルに関する既存資料収集</b>  日韓トンネルの設計施工に参考となる国内外のトンネルに関する資料（工事誌など）の収集した（例、日振隧道、新清水隧道等）。</p>					
国際協力事業	<p><b>3. 勉強会や交流会の実施</b>  海底トンネルに関する研究や広報を行っている海外の団体と交流し資料提供などをした。</p>	通年	韓国 日本	10人	不特定多数	277
情報収集提供事業	<p><b>4-1.インターネットによる情報収集</b>  海底トンネルの設計、施工、維持管理などに関する情報を収集して整理した。  <b>4-2.ホームページの公開と維持</b>  インターネットにより不特定多数に日韓トンネルに関する情報を提供した。</p>	通年	日本	4人	不特定多数	213
刊行紙の発行事業	<p><b>5-1.日韓トンネル通信の発行</b>  刊行紙として「日韓トンネル通信」を4回発行した。  <b>5-2.パンフレットの改訂</b>  日韓トンネルのパンフレットを改訂した。日本語版、韓国語版、英語版、中国語版がある。</p>	随時	日本	10人	全会員 他 4,000人	812